

案

川辺町就学前教育・保育カリキュラム

(概要版)



川 辺 町

I 就学前教育・保育カリキュラムの策定にあたって

1 策定の主旨

本町では、幼保連携型認定こども園への移行を進める中で、知育・体力向上と子どもの健やかな成長を目的に、保育所等の就学前児童に対して、年齢に応じた英語教室、体操教室、リトミック教室、サッカー教室、人形劇鑑賞などの知育・体力活動を行い、同時に、発育に偏りのある子どもの支援と保育士等の資質向上を目的に、作業療法士等による発達支援研修を行っています。

これらの取り組みや、就学前から就学への切れ目がなく、スムーズな接続のための支援、就学前児童に質の高い教育と保育を提供する仕組みの構築、保育内容の標準化に向け、「就学前教育・保育カリキュラム」を策定するものです。

2 策定の基本的な考え方

幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、子育てに係わる諸問題を解決するための「子ども・子育て支援新制度」で創設された幼保連携型認定こども園の教育及び保育の内容を定めたものです。

質の高い教育及び保育を提供する観点から、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、本カリキュラムを策定します。

3 位置付け

この就学前教育・保育カリキュラムは、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、認定こども園から小学校1年生まで、子どもの成長に応じながら、それぞれの教育・保育現場で実施されることが望ましい教育・保育内容を示したものです。

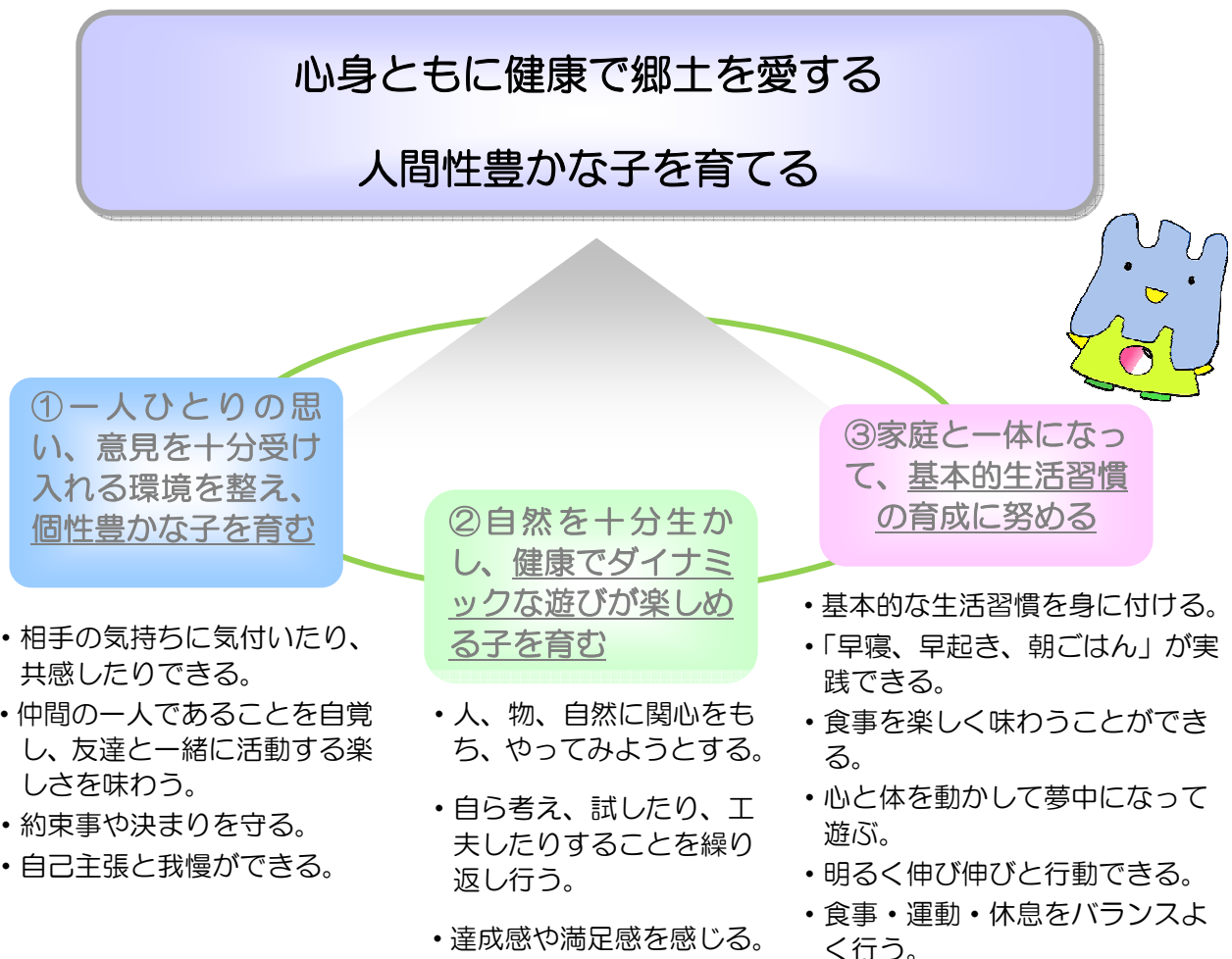
このため、上位計画である「川辺町総合計画」「川辺町教育大綱」の方針を踏まえるとともに、本町の「川辺町あらたまプラン」「川辺町子ども・子育て支援事業計画」「川辺町子ども読書活動推進計画」を横断する内容となります。

4 川辺町のめざす「子どもの姿」について

本町のめざす「子どもの姿」は、『心身ともに健康で郷土を愛する人間性豊かな子ども』です。その「子どもの姿」を実現するためには、認定子ども園・家庭・地域がそれぞれの担うべき役割を踏まえ、連携・協働して子どもの育ちと学びを支え、生涯にわたる生きる力の基礎を育成していくとともに、乳幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識の芽生えが育まれる支援が必要です。

本町では、「明るい子」「元気な子」「考える子」をめざし、①個性豊かな子を育む、②健康でダイナミックな遊びが楽しめる子を育む、③基本的な生活習慣の育成に努める、この3つの「育む」を柱とし、教育・保育の実践を推進します。

川辺町の子どもの教育・保育理念



Ⅱ 就学前教育・保育カリキュラムの内容

就学前教育・保育カリキュラムの内容は子どもの年齢別に、めざす子ども姿「個性豊かな子を育む」「健康でダイナミックな遊びが楽しめる子を育む」「基本的生活習慣の育成に努める」の3つの柱と「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域をもとに教育・保育内容を整理します。

		0歳児	1歳児	2歳児
個性豊かな子を育む／健康でダイナミックな遊びが楽しめる子を育む／基本的生活習慣の育成に努める	健康	<ul style="list-style-type: none"> 衛生的で温かい環境の中で、健康に過ごす。 安心感を持てる保育教諭等と関わりながら、離乳食が完了し、幼児食を食べるようになる。 眠気を感じ、一定時間ぐっすり眠り、気持ちよく目覚める。 寝返り、お座り、はいはい、伝い歩きなど、十分に体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる保育教諭等との関係の中で、快適に過ごす。 いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 保育教諭等や友達と一緒に食べることを楽しむ。 身の回りの事を自分でやってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びを見つけ、のびのびと体を動かして遊ぶ。 保育教諭等との安定した関わりの中で、基本的生活習慣を身につけ、自分でしようとする。 友達と一緒に楽しく食事をする中で、いろいろな食材に触れ、味わいながら食への関心を高める。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れられる安心感の中で、自分の気持ちを受け入れてもらい、大事にしてもらおう心地よさを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育教諭等に十分気持ちを受け止められることで、甘えたり、助けを求めたりなど、安心して生活する。 友達に興味をもち、喜んで関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 自分でできることは自分でしようとする。 集団生活に必要な簡単な決まりが分かり、順番を待ったり、おもちゃの譲り合いができる。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 散歩などを通じて動植物に親しんだり直接草花に触れたりして、体験を広げていく。 身近な物に興味を持ち、知らせたり関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩を楽しんだり、草花や虫に触れて喜ぶ。 身近な生きものや植物に関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩を楽しみ、身近な自然物に関心を持ち、遊びに取り入れる。 身近な生き物や植物に関心を持って触れようとする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 喃語、片言、指差して意思を表示しようとする。 絵本の読み聞かせや歌遊びを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> したいこと、してほしいことを言葉で伝えようとする。 おはよう、ありがとう、ごめんねなどが言える。 絵本に親しみ、言葉の繰り返しや模倣遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや気持ちを言葉で表し、言葉のやりとりを楽しむ。 ごっこ遊びや絵本、紙芝居を通して、言葉を豊かにする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 泣く、笑うなどの表情の変化や喃語で欲求を伝えようとする。 音楽に親しみ、リズムに合わせて体を動かす楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。 保育教諭等や友達と一緒に歌ったり音楽を聴いて踊ったりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中でさまざまな音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり楽しんだりする。 歌やリズム遊び等、音楽に合わせて表現する楽しさを味わう。

3歳児	4歳児	5歳児
<ul style="list-style-type: none"> 体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。 好きなあそびの中で、満足感や達成感を味わう。 友達や保育教諭等と一緒に食べることにより、食事の楽しさを知るとともに、食事のあいさつを身に付け、食への関心をもつ。 健康な生活のリズムを身に付ける。 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 身体の異常を感じたときに、保育教諭等に簡単な言葉で伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 生活に必要な基本的な生活習慣を身につける。 楽しい食事の雰囲気の中から、好き嫌いなく食べる習慣を身に付け、食への関心を持つ。 危険な事をしてはいけないことが分かり、しないように努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に合わせて行動する。 自分の体や健康に関心をもち、体調について、微かな症状を含め、保育教諭等に伝える。 危険なこと、してはいけないことを理由とともに理解し危険を避けるための行動を身につける。 身体の機能を十分使い運動的な遊びを楽しむ。
<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることは自分です。 いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。 よいことや悪いことがあることに気づく。 友達とのかかわりや、やり取りの中で、相手を気遣う気持ちをもつ。 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 友達とのかかわりを深め、思いやりを持つ。 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考え、自分で行動する。 進んでお互いの意見を言い合い、自分の立場を主張したり、相手の意見を受け入れたりする。 友達の良いところに気づき、友達に認められる経験を通して、友達関係を深める。 共通の目的に向かい、仲間と協力して取り組み、仲間の意思を大切にしながら自分の役割をしっかりと果たそうとする。 高齢者を始め地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。
<ul style="list-style-type: none"> 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 身近な物を大切に使う。 日常生活の中で数量や図形などに興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 様々な素材の性質や道具の使い方を知り、遊びや活動の中に取り入れる。 身近な動植物に親しみをもち、接し、いたわったり大切にしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。 身近な動植物に触れ、命の大切さに気付く。 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持つ。
<ul style="list-style-type: none"> 自分が思ったこと、経験したこと、感じたことを自分なりに言葉で表現する。 したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。 相手の話を聞けるようになる。 日常生活に必要な言葉が分かるようになり、やりとりを楽しむ。 絵本を読んでもらい、いろいろな言葉や気持ちがあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 いろいろな体験を通してイメージや言葉を豊かにする。 絵本や物語等に親しみ、イメージを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> やり取りを通じて相手の話を聞いて、共感したりして、言葉による伝え合いができる。 様々な絵本や物語、紙芝居などに親しむ中で、相手の新たな世界に興味や関心を広げる。 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 描いたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。 音楽に親しみ歌ったり楽器を鳴らしたり、踊ったりする楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で感じたことや考えたことなどを自由に表現する。 楽器を使って音色の楽しさやリズムの楽しさを味わう。 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

Ⅲ 個別に支援が必要な子どもの教育・保育

個別に配慮が必要な子どもとその保護者が安心して就学の準備を進められるよう、また小学校入学までの見通しがもてるよう、町のシステムやサポート体制、相談窓口など、就学に関する情報提供をします。

1 就学までの準備【認定こども園が行うこと】

① 子どもを支援する

保育教諭等が子どもの特性を知った上で環境の構成や支援の内容について理解をするとともに園全体で共有し、当該子どもが学級の中で、友達と気持ちよく過ごせるようにすることが大切です。

② 保護者を支援する

個別に支援が必要な子どもの保護者と信頼関係を築いていくために、綿密な連携をとることが大変重要です。特に子育ての悩みや不安、焦りなど、しっかりと受け止め、保護者の気持ちをよく聞き、共に子どもの成長を支えていくという姿勢を示していくことが大切です。

③ 関係機関と連携する

個別に支援が必要な子どもが、すでに医療機関や療育機関を利用している場合もあります。関係諸機関と連携を図り、情報を共有することで、効果的に支援を進めていくことが可能となります。小学校への引継ぎの際には、個別の教育支援計画を活用します。

2 就学までの準備【小学校が行うこと】

① 就学時健康診断

就学予定の子どもを対象とした就学時健康診断を行います。加えて、関係教員との個別の面談等を通じて、一人ひとりの子どもを把握します。

② 支援体制の整備

教育支援委員会の結果や保護者との懇談をもとに、個別に支援が必要な子どもの受け入れにあたって、どのような支援がどの程度必要かを把握します。

Ⅳ 小学校教育との円滑な接続（連携接続カリキュラム）

幼保連携型認定こども園では計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ね、子ども一人ひとりに応じた総合的な指導を行います。一方、小学校では、時間割に基づき、各教科の内容を教科書などの教材を用いて学習しています。このような生活の変化に子どもが対応できるようになっていくことも学びの一つとして捉え、保育教諭等と小学校の教師は適切な指導を行います。

（一部抜粋）

健康、生活する力(環境の変化に適応する力や身辺自立・生活習慣に関する力)	
子ども・児童の姿	保育教諭・指導者の配慮・工夫等
① 教室環境	
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作品などを取り入れた壁面構成をするなど、季節や行事を感じながら、生活している。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動の中で、話の内容に興味や関心をもてるように工夫し、話し手の方を向いて落ち着いて聞く経験を取り入れ、活動のねらいに応じて机や椅子の並べ方や活用の仕方を考える。
<ul style="list-style-type: none"> 教室では一人ひとりの机と椅子が決められており、黒板を向いて学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 机は、黒板に向かって列をつくる並べ方だけでなく、グループで机を合わせて座ったり一対一で向かい合って座ったりすることなども取り入れる。
② 一日の生活の流れ	
<ul style="list-style-type: none"> 登降園は保護者の送迎により、登降時間は保護者の勤務時間などによって様々である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日にち、曜日、天気、一日の活動の流れなどを、朝の会などで確認したり、掲示したりして、一日の生活に見通しをもって行動できるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 登下校は徒歩により、登校から下校まで、基本的に集団での活動が続く。(8:15頃～15:00頃) 	<ul style="list-style-type: none"> 朝は身体と心を目覚めさせる意味でも、簡単な体操や歌・音読などを取り入れる。
③ 身の回り(靴、衣服の着脱、持ち物の整理)	
<ul style="list-style-type: none"> タオル、歯ブラシ、コップなどの個人の持ち物は、園の所定の場所に置き、必要に応じて使用し、毎日、家庭に持ち帰って衛生的にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 登降園時に自分のバッグを自分で持つ、自分で翌日の持ち物の準備をする。各自が持ち物の管理をするなどの機会を取り入れながら、身につけるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 学用品をはじめ、体操服、上履きなど、自分で管理する物が多くなり、ロッカーなどの場所に収納している。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初は、自分専用で管理するものは最小限(教科書、ノート、筆箱、下敷き、上履き、体操服)にとどめ、徐々に増やすようにする。
④ 食事・排泄	
<ul style="list-style-type: none"> 昼食は、概ね 11 時 30 分から 12 時頃に食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 極端な偏食・少食を改善するよう働きかける。
<ul style="list-style-type: none"> 給食は、決められた献立を好き嫌いなく 20 分程度で食べる。(準備開始 12:20 頃、食事の開始 12:40 頃、終了 13:00 頃) 	<ul style="list-style-type: none"> 机の準備、手洗い、当番の白衣着脱など、給食前の準備から一つ一つ確認しながら行う。

V 家庭や地域社会との連携

子どもの生活は、家庭、地域社会、園と連続的に営まれています。家庭や地域社会での生活経験が、園において保育教諭等や他の子どもと生活する中で、さらに豊かなものとなり、園での生活で培われたものが、家庭や地域社会での生活に生かされ、子どもの望ましい発達が図られています。

1 家庭教育の取り組み

家庭は、子どもの心のよりどころとなるもので、家族とのふれあいを通じ、人間形成が行われる最初の場であるとともに、人間として基本的な資質や能力を育成する場であり、教育の原点と言えます。

家庭教育は、保護者が子どもに対して行う教育で、子どもが基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立や自制心、社会的マナーなどを身につける上で重要な役割を担っています。

家庭教育を充実させるために、各園では家庭教育学級を開設し、家庭で大切にしてほしいことを保護者に示し、園と連携しながら実践していただけるよう働きかけます。

2 地域における取り組み

子育ては本来、家庭を中心に行なわれるものですが、近年の急速な社会環境の変化においては、個々の家庭だけでは困難な状況にあり、地域や社会全体での子育て支援が必要とされています。

また、子どもは、地域社会の中で人とふれあい、交流することにより、社会性を身につけ、成長していきます。

本町においては、子育ては親だけでなく、地域や社会全体が協力してするものであるという意識を持ち、「子どもを地域で育てるまちづくり」をめざします。